

幼稚園教諭・保育士養成課程における
「健康科学論」の講義に関する考察
—授業アンケートの分析を通して—

清水 洋生

Consideration of teaching of “Health Science” in the
curriculum of Nursery School Staff Training Course
— Analysis of student questionnaire —

Hiroo SHIMIZU

*Nijima Gakuen Junior College
Takasaki, Gunma 370-0068, Japan*

要 旨

保育の質の確保・向上が求められる中、養成校は、優れた保育者・教育者を現場に供給すべく、養成段階での質の高いカリキュラムを提供することが恒常的に求められる。本研究では、幼稚園教諭・保育士養成のあり方を検討することを目的として、「健康科学論」の内容検討を行った。幼稚園教諭・保育士養成科課程に在籍する学生（女性 68 名、男性 6 名）に、「健康科学」の講義満足度を調査する授業評価アンケートを実施。そこから、多くの受講生はアクティブ・ラーニング手法を用いた授業形態を志向していることが示された。

Abstract

Improvement of the quality of early childhood education and ensure is an issue that has generated attention in our country. The purpose of this study is consideration of teaching of “health science” in the curriculum of comprehensive children education at a junior college. The author surveyed evaluation questionnaire to students registered at a junior college and vocational school (68 women and 6 men) to examine students' satisfaction with courses. The results suggest that many students expect to introducing active-learning methods.

1 はじめに

神奈川県横浜市にある専門学校（保育士養成科 2 年制, 指定保育士養成施設）（以下, 養成校と省略）の第 1 学年, 同じく神奈川県横浜市にある短期大学（通信教育部子ども学科）（以下, 短大と省略）の第 1 学年を対象に「健康科学^{*1}」の講義を担当した。現在は, 本学で第 1 学年を対象とした「健康科学論^{*1}」の担当者である。

本研究は, 養成校, 短大での実施した「健康科学」について, 授業アンケートを分析することで, 教育効果の高い授業展開について検討する。新島学園短期大学はもとより他の幼稚園教諭・保育士養成校で開講される「健康科学論」の講義がより良いものになるよう考察したい。

2 受講対象者と講義概要

①受講対象者

養成校の第 1 学年, 2 クラス編成（A クラス 24 名, B クラス 27 名）51 名。短大の第 1 学年, 23 名。総計 74 名を対象に開講された。

②講義期間・回数

平成 26 年 10 月から平成 27 年 1 月までの間の計 15 回。なお, 養成校では, 同じ内容の講義を, 対象クラスを入れ替えて実施した。

③教材

指定したテキスト・教材は, なかった。テキストに代わるものとして著者作成のレジュメを全授業回で配布した。さらに, 補助資料を適宜配布した。配布枚数は, 1 回の講義につき A3 両面印刷で 1 枚程度, 総計 20 枚であった。

④シラバス

「健康科学」実施シラバスを表 1 に示す。講義内容は, シラバスの内容の通りである。なお, 授業は講義形式で実施され, 履修区分は必修授業であった。養成校, 短大ともに同じシラバスで実施された。

*1 健康科学・健康科学論

「健康科学・健康科学論」は, 幼稚園教諭・保育士養成校において教養科目に配当される教科目である。科目名が異なるが, 内容は同一である。幼稚園教諭・保育士養成校で開講される科目については, 保育内容, 実習を中心に, 保育内容（健康）の授業展開（岩城・嶋崎, 2002）, 保育内容総論の教育方法（小藺江, 2012）, 保育内容「人間関係」と小学校教育の内容の関連（伊勢, 2014）など多岐にわたり研究がなされている。しかしながら, 健康科学論については, ほとんどなされていない。

⑤評価

授業毎に実施する小テスト、学期末テスト、提出物（振り返りノート、コメントカード等）、授業に取り組む姿勢から総合的に評価した。小テストは、授業内容を振り返る内容になっており、主に穴埋め記述形式であった。学期末テストは、記述問題、多肢選択問題を出題した。

表 1 「健康科学」シラバス

〔授業のキーワード〕		
健康科学, 健康の保持増進		
〔授業の目的〕		
私たちが、豊かな生活を送るうえで「健康」は重要なキーワードになります。本授業では、「健康」とはどのような状態をいうのか、健康を測る指標には、どのようなものがあるのかなどについて学びます。また、健康について科学的な視点に立ち、自分自身の健康づくりや他者への健康支援についてより広い視点で検討できるようにしていきます。		
〔授業の到達目標〕		
①健康の概念について、多角的な視点から捉えることができる。 ②生涯にわたる生活設計への自己認識を確立し、実践することができる。 ③救命救急や安全管理などへの知識を深め、その対策や指導力を身につけることができる。		
〔授業計画・内容〕		
授業回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション総論	シラバスに基づき説明する健康科学について概説する
2	健康科学とは	「健康」を科学するとはどのようなことか学ぶ
3	健康とは	WHOの世界保健憲章の健康定義について学ぶ
4	体力の定義	防衛体力と行動体力、体力の構成要素について学ぶ
5	健康を測る指標①	BMIと標準体重
6	健康を測る指標②	カウプ指数、ローレル指数
7	健康を測る指標③	ブリンクマン指数
8	前半の振り返り	前半を振り返りノートにまとめる、グループ検討
9	運動処置①	運動（スポーツ）時の外傷における救急処置について学ぶ RICE 処置
10	運動処置②	熱中症対策、水分補給について学ぶ
11	感染症	感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学ぶ
12	こどもと安全管理①	遊び環境の変化、リスクとハザード、屋外遊具の事故について事例を交えて学ぶ
13	こどもと安全管理②	保育施設における事故について事例を交えて学ぶ
14	自己の健康	ライフスタイルにおける健康づくりについて考える
15	まとめ	授業を振り返りノートにまとめる、グループ検討授業の総まとめを行う

3 方法

①調査対象・調査時期

健康科学論の講義内容を検討するために、受講者に対し授業アンケートを実施した。調査は、2016年1月上旬から中旬にかけて、講義時間を使い一斉に実施され、講義終了後に回収する方法をとった。回収した授業アンケートは、養成校、短大、それぞれ74名、全て回答に不備がなかった（有効回答率100.0%）。表2に調査人数、性別を示す。

表2 調査対象人数

調査対象者		
女性	男性	計
68 (91.9)	6 (8.1)	74 (100.0)

Note：平均年齢18.70歳

カッコ内（ ）は、パーセンテージを表示。

②調査項目・授業アンケート

授業アンケートは、4つの下位尺度と2つの自由記述から構成されている。4つの下位尺度とはそれぞれ、授業の水準（5項目）、自分自身の授業に取り組む姿勢（5項目）、教員の授業に取り組む姿勢（5項目）、授業全体の総合評価（6項目）である。これらは、「5：強くそう思う」から「1：全くそう思わない」までの5件法で尋ねた。自由記述は、「最も印象に残っている授業内容」、「授業に対する要望」の2問である。

5件法で尋ねた下位尺度の概要については、以下の通りである。

1) 授業の水準（5項目）

ここでは主に、授業の学習内容・レベルは適切であったか、授業で取り上げる分量は適切であったか、授業計画通りに進化したかなどについて尋ねている。

2) 自分自身の授業に取り組む姿勢（5項目）

ここでは主に、受講者自身の授業の理解度、授業への熱意、授業以外での学習状況などについて尋ねている。

3) 教員の授業に対する取り組む姿勢（5項目）

ここでは主に、教員の授業に対する意欲、声の大きさや話すスピード、説明や板書の明瞭さなどについて尋ねている。

4) 授業全体の総合評価（6項目）

ここでは主に、今後の学びへ影響を与える内容であったか、全授業を通して判断される総合評価などについて尋ねている。

4 結果

①授業アンケートの検討

授業アンケートの内的整合性を検討するために、クロンバックの α 係数を算出した。その結果、各下位尺度の値は、授業の水準 (0.781), 自分自身の授業に取り組む姿勢 (0.804), 教員の授業に対する取り組む姿勢 (0.764), 授業全体の総合評価 (0.821) であった (表 3)。したがって、各下位尺度の内的整合性は十分に高いと言える。また、下位尺度ごとに項目-全体得点相関 (I-T 相関) を求めたところ、各下位尺度の信頼性を大きく下げる項目は見つからなかった。表 4 に相関行列, 平均値, 標準偏差を示す。クロンバックの α 係数, I-T 相関などから判断して、授業アンケートの内的整合性は十分高いと判断される。

表 3 授業アンケート各下位尺度の α 係数

下位尺度	Alpha
授業の水準	0.781
自分自身の授業に取り組む姿勢	0.804
教員の授業に取り組む姿勢	0.764
授業全体の総合評価	0.821

表 4 相関行列, 平均値, 標準偏差

授業の水準	1			
自分自身の授業に取り組む姿勢	0.66	1		
教員の授業に取り組む姿勢	0.77	0.72	1	
授業全体の総合評価	0.71	0.68	0.79	1
平均値	4.01	3.72	4.11	4.06
標準偏差	0.37	0.52	0.40	0.36

Significant difference at $p < 0.01$. $n = 74$. (women = 68, men = 6)

②授業アンケート結果の検討 ～下位尺度について～

授業アンケートを構成する 4 つの下位尺度について検討する。

「授業の水準」, 「教員の授業に取り組む姿勢」, 「授業全体の総合評価」, 3 項目において 4.00 以上の平均値を示している。標準偏差から鑑みても、概ね「4: そう思う」の範囲ということである。このことから、左記 3 項目は、受講者にとって望ましい結果を得られたと結論づけてよいだろう。「自分自身の授業に取り組む姿勢」は、平均値 3.72 であった。このことから、受講者が本授業に積極的に取り組んでいたと結論づけることは慎重にならなければならない。しかしながら、4 項目全てにおいて十

分な値 (3.72 ~ 4.11) を示している。ここから、授業満足度は総じて高かったと言える。さらに、相関係数をみると、全てにおいて高い相関を示している。特に「教員の授業に取り組む姿勢」は、他の3項目とそれぞれ高い相関 (0.72 ~ 0.79) を示している。

③授業アンケート結果の検討 ~自由記述「最も印象に残っている授業内容」について~

学生の意見が多かった意見を引用し表5にまとめた。「最も印象に残っている」という内容の質問であったが、複数の授業内容に対して意見を記述する学生が多く存在した。受講者数を回答数が上回っているのはそのためである。なお、ここでは記述の多かった上位5回のみ取り上げる。

授業テーマでは、「こどもの安全管理①, ②」, 「運動処置①, ②」が上位に挙げられた。授業内容から、これらは実学的な学びであることがわかる。授業アンケートの実施時期が、養成校、短大ともに保育実習Ⅰの終了後であったことから鑑みれば、実習を経験し、実学的な学びの必要性を体感したからこそこの結果であろう。授業アンケートの中には、表5の「代表的な意見の引用」以外にも、「事例、実際のケース」, 「現場で役立つ」, 「事故の対応」, 「保育者・教育者の役割」などのキーワードが多くあった。このことから、受講生が、実際に保育者・教育者になったときに活かすことのできる学びを求めていることがわかる。

表5 最も印象に残っている授業内容

回数	テーマ	代表的な意見の引用	回答数
13	こどもと安全管理 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士になったときに活かすことができる内容だったから ・実際の例を見ながら学べたのでイメージがわいた ・事前に知ることができたので、目の前で起こっても対応できそう ・事故が起きた際の対応の仕方が学べたから勉強になった 	23
10	運動処置 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士になって外遊びの時にとても役に立つ知識だと思う ・飲むタイミングや量など具体的に学べたから ・仕事してからでなくても、今からすぐにかせる内容でした ・熱中症になった子どもがいたら絶対慌てそう 	18
12	こどもと安全管理 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具事故は、新聞で読んだことがあったので関心があった ・実習に行ったときに注意できるから ・事例を紹介して頂いたのでイメージしやすかったから ・保育者として安全管理はとても大切な仕事だと感じた 	17
9	運動処置 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・とりあえずの救急法は絶対知っておかないといけないから ・子どもにけがはつきものだから勉強になった ・RICEという語呂でとてもわかりやすかった ・運動会や外遊びなどで、ケガをしたときに役に立ちそう 	14
6	健康を測る指標 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの肥満度を測る指標があるなんてビックリした ・保護者に相談をされたときも、ちゃんと答えられるから ・授業がきっかけで、他の指標も調べたほど印象に残っています ・家に帰って娘に当てはめて計算しました 	12
計			84

④授業アンケート結果の検討 ～自由記述「授業に対する要望」について～

「授業に対する要望」を検討するため、KJ法（川喜田,1967）により記述内容の類似性や相互関係などを分類・整理して構造化した。その結果、授業に対する要望は、つのカテゴリーに分類できることが明らかになった（表6）。

特記すべきは、やはり最も要望が多かった「授業手法・形態」であろう。回答数は、回答延べ数の半数以上（55.6%）且つ、回答者の60.8%（45/74）に達する。記述された意見を見ると、グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、体験学習、調べ学習、成果物の作成などがキーワードとして散見された。これは、受講者自らが能動的に学ぶ意欲を有しており、それらに応える授業手法・形態を求めていることに他ならない。

表6 授業に対する要望

分類	代表的な意見の引用	回答数
授業手法・形態	・授業で学んだ内容を園便りや通信などの成果物にしたかった（先生が「これは園便りのネタになるぞ」と言っていたので）	45
	・事例を紹介した授業のとき、実際に園に行き遊具を見ながらだったらイメージしやすいと思いました	
	・RICE 処置のような、自分たちが体験できる内容ばかりだとさらに良いと思います	
	・関心のある内容が多かったので、その内容を調べてまとめる時間を授業で作って頂きたかったです	
	・何回かやったけどもっとグループワークがしたかった	
授業内容	・高齢者が増えているし、今後高齢化が進むというので、高齢者の健康について取り上げてほしかった	14
	・ダイエット、美容、運動の仕方など自分の体について知ることが出来る内容がもっとあったらよかった	
	・QOLや健康日本21の話はもっと聞きたかった	
授業者の態度	・ホワイトボードの字をもう少し丁寧に書いてほしい	6
	・昼休みが短くなるので授業時間は守ってほしいと思った	
	・しゃべっている人には、もっと注意してください	
	・たまに絵を描いてくれたけど、下手すぎて伝わらない	
その他	※自分自身の授業態度についての反省、授業者に対する謝辞が記載された	16
計		81

5 考察

本研究は、著者が養成校、短大での担当した「健康科学」の授業アンケートを分析することにより、今後に向けて教育効果の高い授業展開を検討するために行われた。

まず、授業アンケートを構成する下位尺度について考察する。結果より、「教員の授業に取り組む姿勢」は、他の3項目とそれぞれ高い相関を示していることが明らかになった。これは、教員の授業に取り組む姿勢が、学生の授業に取り組む積極性を促し、結果として授業の満足度につながることを示している。当然だが、授業は教員からの一方的な教授ではなく、受講者との相互作用でその質が高まることを示している。このことは、下記、「授業に対する要望」にてさらに考察する。

次に、「最も印象に残っている授業内容」について考察する。結果から、受講生は、実際に保育者・教育者になったときに活かすことのできる実学的な学びを求めていることが明らかになった。慢性的な保育士不足から即戦力として活躍できる人材を求める現在の傾向からも、これからますますこの要望は高まることが推察される。

本学のような短期大学の存在意義は、二年間という短期の修学期間において、特定の分野で資格や専門能力を身につけ、いち早く実社会に人材を送ることができるところにある。上記の社会状況、ニーズなどから鑑みれば、短期大学教育では、学生自身の将来への明確なゴール・夢の実現に向け積極的に支援し、社会人職業人として一年目から即戦力として働くことの出来る人材を育成する教育を推進していくことが求められる。これらを推進していくためには、やはり学校としての教育理念などアドミッション・ポリシーが明確であること、そのための取り組み・時代のニーズを迅速に捉えたカリキュラムが機能していること重要な鍵である。学校独自の教育内容と教育方法を構築し、学生が主体的に学ぶ機会が得られるよう配慮したカリキュラムを用意するならば、学生は教育理念を通して人間的に豊かになり、また学科科目、特に専門の学問を深く研究することを通して、新時代を拓く知性と視野とを身につけ、多くの知識と具体的で実生活に必要な諸能力を会得することができるだろう。著者のみならず、全授業者が「実学的な学びを求めている」という声に耳を傾け、それに応える授業展開を工夫することが必要である。

最後に、「授業に対する要望」について考察する。結果から、受講者自らが能動的に学ぶ意欲を有しており、それらに応える授業手法・形態を求めていることが明らかになった。質問紙調査による教育方法の検討した藤田(2016)は、「授業形式に関する学生の意見で『学生に質問するので参加型授業で良かったと思う。』という肯定的な意見が多く書かれていた」としている。本研究と同様の傾向を示しており、受講者は本質的にアクティブ・ラーニング志向であると言える。アクティブ・ラーニングとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」(文部科学省,2012)であり、学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ることが狙いとなる。医・歯・薬学、工学などの分野では、従

来からアクティブ・ラーニングを取り入れた学習が進められてきた。さらに、近年は従来型の知識伝達型授業から脱却する新たな学習アプローチとして注目されている。しかし、保育者・教育者養成におけるアクティブ・ラーニング手法を用いた授業実践についての研究はまだ少ない。加えて、多くのアクティブ・ラーニングは未だ試行段階であり、その効果を高めるための実験的研究が重ねられている現状である。本研究からも、受講者は、アクティブ・ラーニング志向であることは明らかである。「幼稚園教諭・保育士養成校で開講される健康科学論の講義がより良いものになるように」という目的を達成するためにも、今後の課題として、保育者・教育者養成におけるアクティブ・ラーニング手法を用いた授業について検討していきたい。

参考文献

- 伊勢 正明 (2014) 保育内容「人間関係」と小学校教育の内容の関連に関する一考察 帯広大谷短期大学紀要, 51, 87-97.
- 岩城 淳子・嶋崎 博嗣 (2002) 保育内容(健康)の授業展開に関する検討 白鷗女子短大論集, 26(1), 85-90.
- 川喜多次郎 (1967) 発想法 中公新書
- 小藺江幸子 (2012) 保育内容総論の教育方法としての幼児期記憶記述の試み 国際経営・文化研究, 17(1), 49-62.
- 藤田一郎 (2016) 学生への質問紙調査による保育内容「健康」教育方法の検討 福岡女学院大学紀要, 17, 85-90.
- 溝上慎一 (2007) アクティブ・ラーニング導入の実践的課題 名古屋高等教育研究, 7, 269-287.
- 文部科学省 (2012) 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申) 用語集, 37.